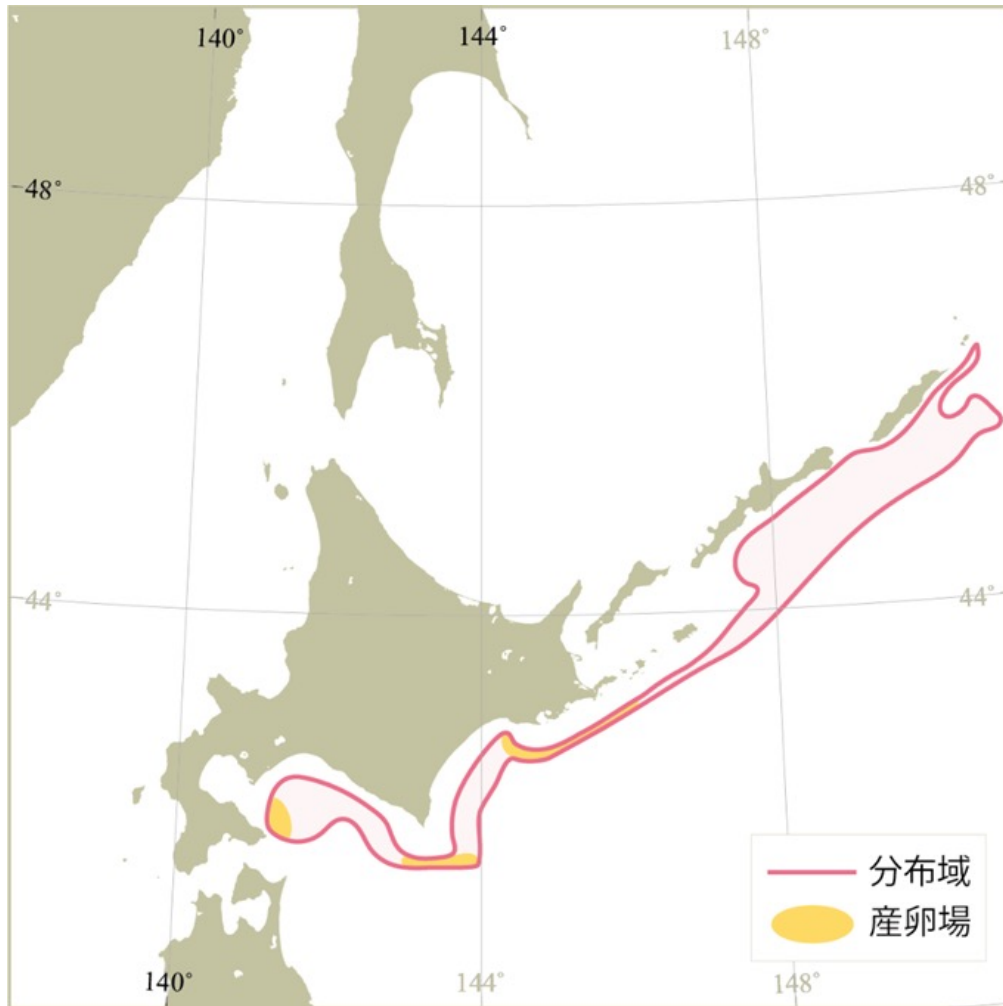




# キチジ道東・道南 令和4年度資源評価結果

# 生物学的特性

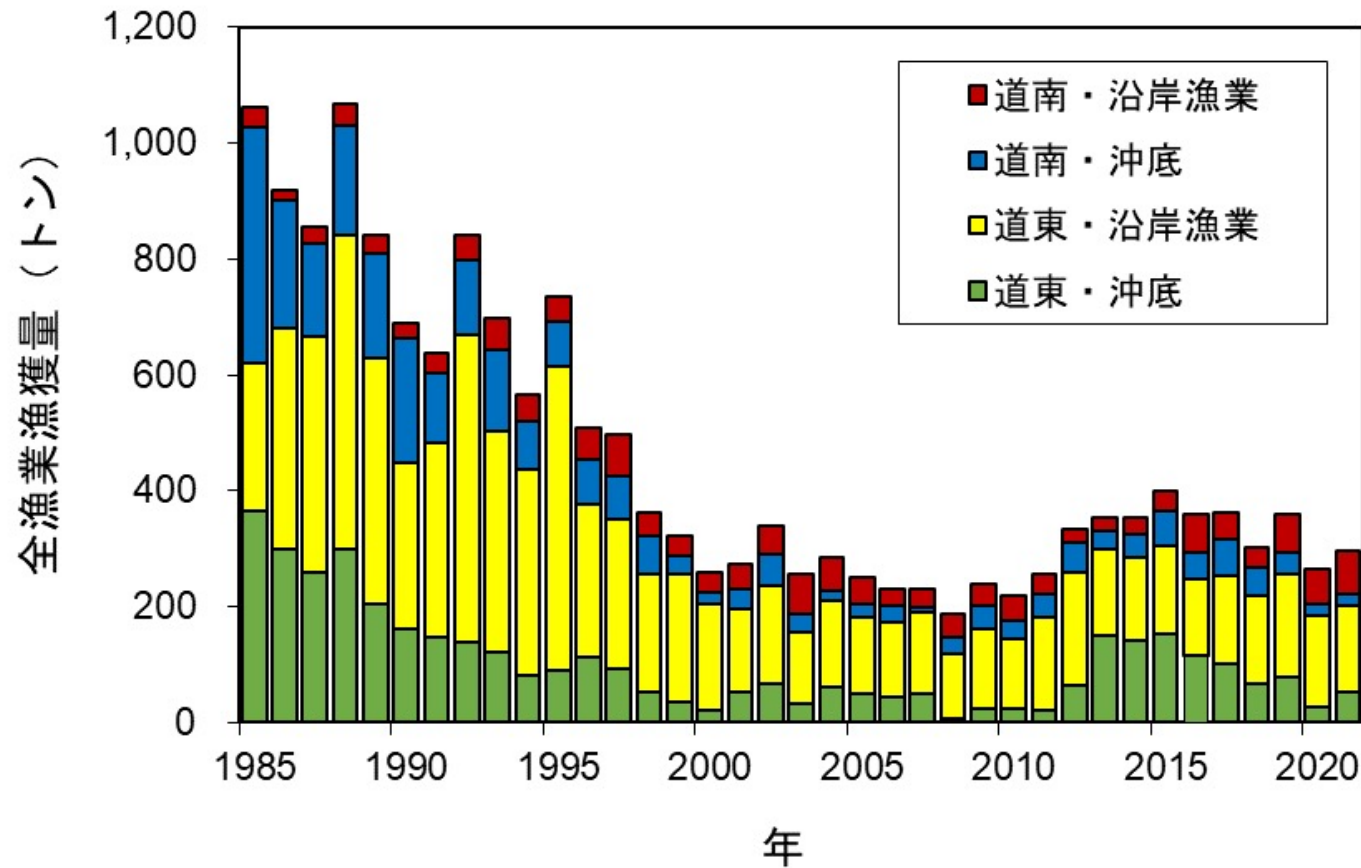


## 生物学的特性

- 寿命：不明
- 成熟開始年齢：雌6～10歳（50%）、雄不明
- 産卵期・産卵場：3～5月、恵山海丘、襟裳岬沖、釧路沖、落石沖の山状地形の周辺（水深400～850m）
- 食性：クモヒトデ類、ヨコエビ類、オキアミ類、エビ・カニ類、多毛類、魚類など
- 捕食者：マダラ、アブラガレイ、キチジ（共食い）

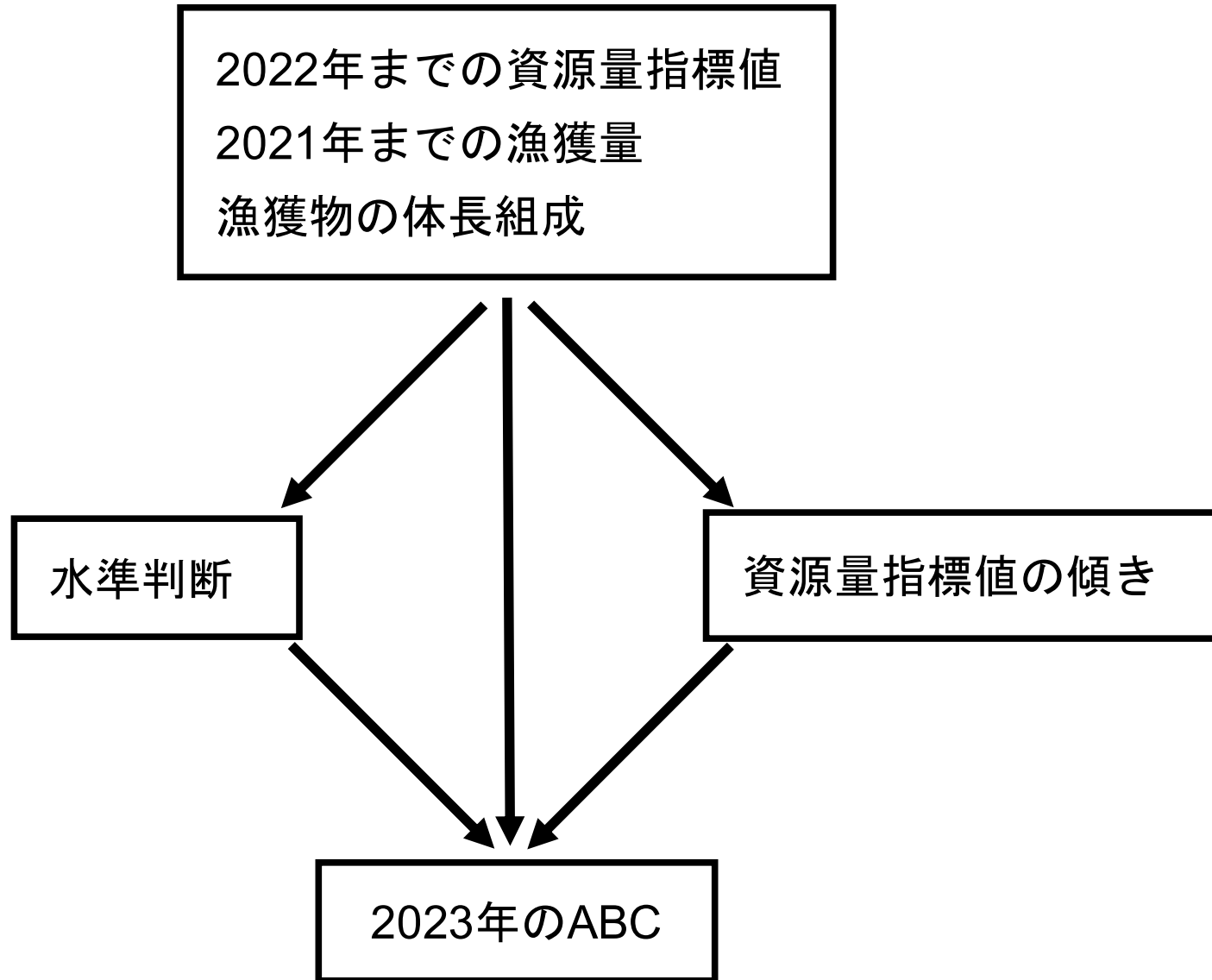
- 主な分布水深は300～900m

# 漁獲の動向

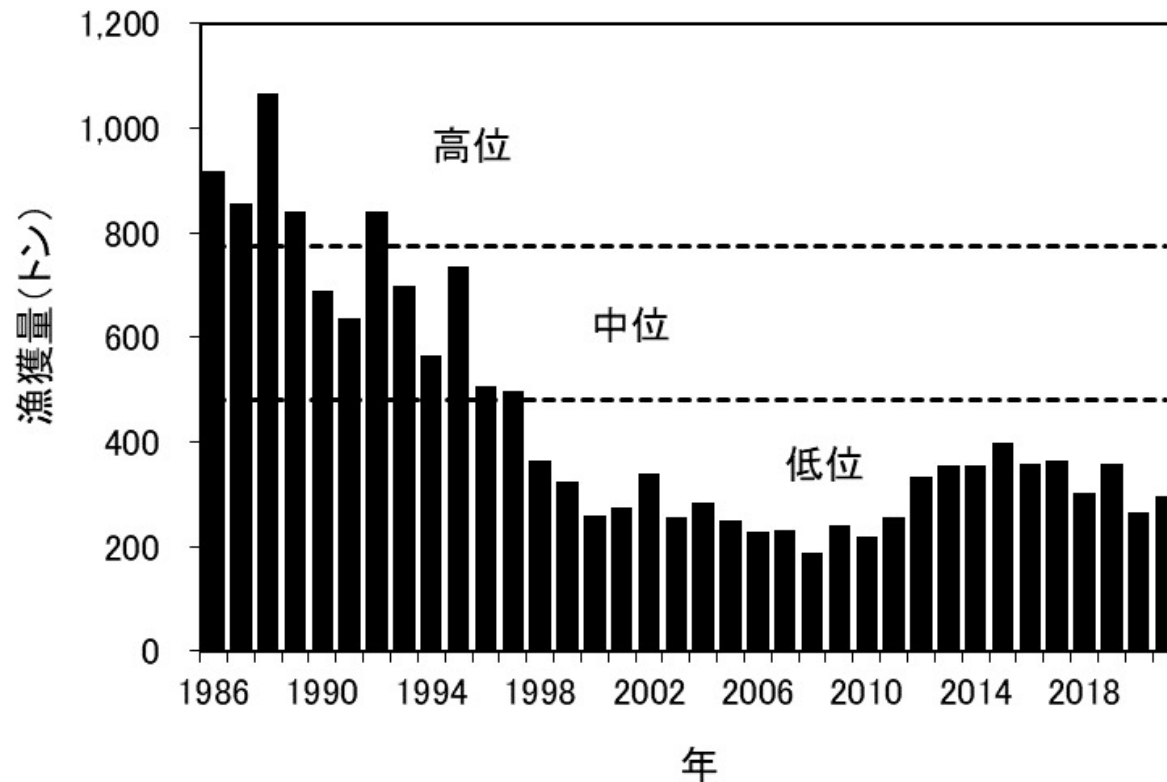


- 沖合底びき網漁業（沖底）や沿岸漁業により周年漁獲
- 1985年には1,000トンを超えていた漁獲量は、1998年以降は概ね200～300トン程度にまで減少したが、2012年以降にやや増加した後、2021年には295トンとなった

# 資源評価の流れ



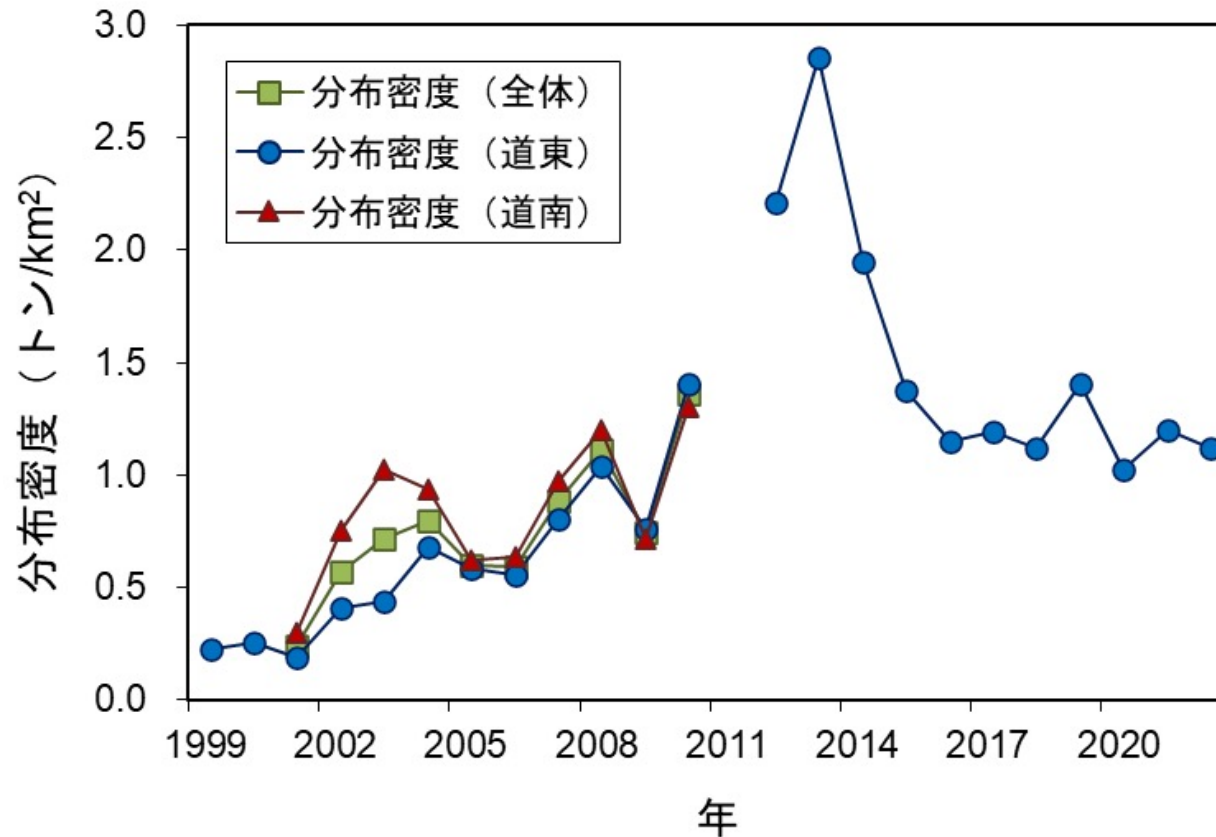
# 資源の動向①



※水準区分 低位／中位：漁獲量 481トン 中位／高位：漁獲量 774トン  
(過去36年間(1986～2021年)の漁獲量の最高値～最低値を3等分して算出)

- 過去36年間(1986～2021年)の漁獲量の推移から資源水準を判断
- 資源水準：2021年の漁獲量は295トンであり「低位」

## 資源の動向②



- 資源量指標値（トロール調査結果に基づく分布密度推定値）により動向を判断
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「横ばい」

※トロール調査：底魚類共同資源調査

# 資源評価のまとめ

- キチジ道東・道南の資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 漁獲量の推移から資源水準を判断し、調査船調査による資源量指標値（分布密度推定値）の推移から資源動向を判断

## 2023年ABC

管理基準	Target/Limit	2023年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・1.04	Target	180	—	—
	Limit	220	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$ : 0.7 (低位水準での推奨値)
- $Ct$ : Cave3-yr (2019~2021年の漁獲量平均値)
- $\gamma_1$ : 1.04 (資源量指標値の変動から算定される係数)